

山口宇部空港拡張整備事業

受賞機関 山口県

はじめに

本州最西端に位置する山口宇部空港は、ソウルまで550km、香港まで2,150kmと国際路線の拠点として恵まれた条件を備えている。この恵まれた条件に加え、滑走路の2,500m化と空港整備により、山口県の国際化が飛躍的に進展するものと考えられる。また、空港整備のなかで、山口県の空の玄関口にふさわしい公園整備も併せて実施し、空港の公園というイメージを持たせるべく、色々工夫を凝らした。

事業概要

事業名：山口宇部空港拡張整備事業
 事業期間：平成8年4月1日～平成14年3月31日
 事業規模：滑走路2,000mを2,500mに拡張
 事業費：約20,000百万円

事業の特徴

この事業は、供用中の空港工事であることから、空港特有の制限表面（進入表面・転移表面）に抵触せず工事を施工する必要があった。そのため、滑走路の短縮運用（2,000m 1,800m）を行い、施工エリアを確保するとともに、護岸断面の設定では、クレーン船の施工高さから方塊ブロックの重量を決めたり、地盤改良では施工高さが低い施工機械で実施できる工法を選定するなど、計画・設計及び施工の各段階において、様々な工夫を行った。

また、工事の途中（平成11年9月）で台風18号の直撃により、空港護岸の倒壊14カ所、空港駐車場も冠水し、586台もの車が屋根まで海水に浸かるという



芝生の広場利用状況



公園(ミニ滑走路と滑走路灯の電力供給の為に風車)



夜のミニ滑走路(電源は風力発電)

前代未聞の大被害を受けた。当然、空港は壊滅的な被害を受け、拡張工事も手戻りを生じた。

しかし、施工者及び監督が一丸となって復旧に取り組み、被災から4日後には、有視界飛行での運航が再開された。

また、地盤改良の工法選定においては、学識経験者も含めた「山口空港技術検討委員会」を設置し検討を行った結果、空港事業で初めてとなる深層混合処理及び表層安定処理工法の組み合わせにより、従来の深層混合処理工より2割程度のコスト縮減を図ることができた。

このようにして、山口宇部空港は、航空需要の増加に対応する安定的な輸送力の確保及び安全性の増大や、周辺市町村の活性化と県勢の振興に果たす役割の増大が期待される、2,500mの滑走路を擁す大型空港として生まれ変わった。

受賞賛助会員 五洋建設(株)、大成ロテック(株)、日本道路(株)、日本舗道(株)